

まちかど アルバム

国府町総合支所



とっとりふるさと就農舎が開校

4月2日(月)、新たに農業を始める若者に総合的な就農支援を行う「とっとりふるさと就農舎」の開校式が、国府町総合支所で行われました。式には、本市や国、県などから関係者が出席。地元の農業関係者も見守るなか、研修生と就農舎スタッフの新たな門出を祝いました。研修生は、兵庫県尼崎市出身の松井博史さん、熊本県水俣市出身の吉永昇平さん、和歌山市出身の土居直樹さんの3人で、「農業だけでなく、地域のリーダーになれるよう頑張りたい」と抱負を述べ、新しい生活をスタートさせました。

市役所本庁舎

無事故の願いを黄色いワッペンに託して

4月5日(木)、この春、小学校に入学する新1年生を交通事故から守ろうと、「黄色いワッペン」の贈呈式が市役所本庁舎で行われました。ワッペンの贈呈は、市内に支店などがある大手銀行、保険会社が毎年行っているもので、今年は新1年生1822人に配られます。ワッペンには、「青だけど車はわたしを見てるかな」というスローガンが印刷されていて、児童の安全を願うとともに、万が一の事故に備え傷害保険も付いています。



智頭街道ほか

勇壮な時代行列に沿道から歓声

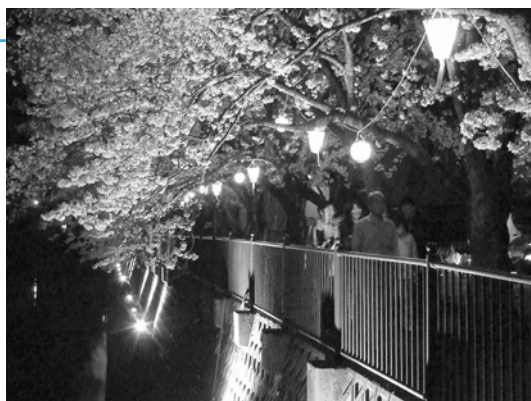
4月7日(土)と8日(日)、智頭街道のきなんせ広場とその一帯で、「第8回鳥取三十二万石お城まつり」が開催されました。7日には、輿に乗ったお姫様や甲冑を身に付けた侍が練り歩く勇壮な「時代行列」や、一糸乱れぬ動きを見せる「奴踊り」などが披露され、多くの見物客でにぎわいました。8日には、花見橋を舞台に郷土芸能などが披露される「花見橋宴の舞」や、袋川をカヌーで下る「お花見カヌー」が満開の桜の下、前日に引き続き行われ、参加者は気持ちのよい汗をかいていました。



河原町渡一木

地域で協力して夜桜を演出

4月1日(日)、河原町総合支所前の桜並木のぼんぼりに初めて明かりがともりました。これは、地域振興に一役買おうと地元渡一木の有志や河原城風土資産研究会スタッフ、総合支所職員が協力。以前から設置されていたぼんぼりに電球を取り付け、新たにスポットライトも設置したもので、暗くなるとライトアップされた桜並木が大井手川の川面に映り、幻想的な雰囲気を醸し出していました。また、週末には総合支所前の市道の一部車両通行止めにし、訪れたみなさんに花見や写真撮影を楽しんでいただきました。



新1年生に交通安全の呼びかけ

4月10日(火)、市内のほとんどの小学校で入学式が行われ、気高地域の小学校では浜村警察署、市交通安全指導員会気高地区会などが、新1年生に交通安全を呼びかけました。これは、子どもたちに無事故で元気よく登下校してもらおうと毎年行っているもので、入学式に出席した親子に「車に気を付けて、元気に学校に来てください」と声をかけながら、手作りのちらしと、安全たすきや反射シールの入った袋を手渡しました。子どもたちは「はい、気を付けます」と元気いっぱいに答えていました。



鹿野城跡公園

満開の桜を満喫

3月24日(土)から4月17日(火)まで、鹿野城跡公園で「桜まつり」が開催されました。約500本のソメイヨシノやヤエベニシダレなどの桜は例年より早く満開となり、見頃となった4月初旬には町内外から多くの花見客が訪れました。また、夕方6時から夜10時まではぼんぼりが点灯され、訪れたみなさんは昼間と違う桜の風情を満喫していました。



流しびなの館

繊細で華麗な押絵人形の世界

流しびなの館では、6月末日まで「押絵人形展」が開催されています。展示されているのは、江戸時代に鳥取藩士であった本部家の九代目、本部明さんが流しびなの館へ寄贈した押絵で、明治時代から昭和初期までにかけて作られたものです。押絵は、切り抜いた厚紙を布で包んで、中に綿などを入れて立体的にした裂細工の一種で、奈良時代に中国から日本に伝わったといわれています。繊細で華麗なこの押絵人形を、一度ご覧ください。



佐治町中央公民館

鳥獣被害から農作物を守ろう

3月22日(木)、「イノシシ等被害対策勉強会」が佐治町中央公民館で開催されました。近年、イノシシなどによる農作物の食い荒らし被害が各地で発生し、農家にとって深刻な問題となっています。勉強会では県の鳥獣被害対策専門員が、農産物を守るのに効果的な防止柵の設置方法などについて説明。被害を防止したいと切実に願う参加者は、日ごろ抱える問題を質問するなど熱心に勉強していました。



さざんか会館

大正琴が奏でる名曲に酔う

4月5日(木)、ギャラリー夢広場で「琴城流大正琴コスモス会」の演奏会が開催されました。ギャラリー夢広場は、健診などの会場になっているさざんか会館1階のロビーが不定期で模様替えして開催されるギャラリーで、この日は同会により「荒城の月」や「ふるさと」が演奏され、大正琴が奏でる美しい音色にさざんか会館を訪れていたお年寄りや親子連れは足を止め、しばし聴き入っていました。

